

ドイツと日本の検証史を比較

戦争と医の倫理国際シンポジウム

11月17日、保団連も参加する「戦争と医の倫理」の検証を進める会(主催)のシンポジウム「戦争と医の倫理」が、京都大学で開かれた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。



参加者の質問に答える刈田啓史郎氏(左)

非核・平和への希求

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。その中で、ドイツと日本の検証史を比較し、「戦争と医の倫理」の検証史を比較する必要があると述べた。

戦争と医の倫理 「ドイツと日本の検証史を比較」

①パネル展示

日時 11月16日(金)
11時～17時(午後10時～午後12時)
場所 京都大学国際交流センター(無償)

②国際シンポジウム

日時 11月17日(土)
午後3時～6時
場所 京都大学百年時計台記念館 百年時計台ホール

パネリスト

① Bastian Dreyer (ドイツ)
刈田啓史郎氏(日本)

座長 小島啓明氏、川崎みどり氏

参加費 無料

主催 「戦争と医の倫理」の検証を進める会

(全国保険医団体連合会内)

03-6555-5121

2012年12月5日

「戦争と医の倫理」 日独の歴史を検証

「検証を進める会」が国際シンポジウムを主催

旧日本陸軍の「三三部隊」やドイツの「強制収容所」など、人殺しを繰り返した医師・医学生たちが深く関わっていた。戦後、日本でもこのように検証し、今日の医倫教育や医の倫理に活かしていただくことを目的とした国際シンポジウムが、11月17日に京都大学「百周年記念ホール」で行われ、全国から300人以上が参加しました。

シンポジウムは大阪府保険医協会も参加する「戦争と医の倫理の検証会」の開催で実現されました。主催は「戦争と医の倫理の検証会」事務局、小島正明・東大医学部名誉教授と川島タケリ・日本看護大学名誉教授の座長で、パネリストとしてドイツからティル・バスターア、医師(戦争防止国際医師会)

「三三部隊」やドイツの「強制収容所」など、人殺しを繰り返した医師・医学生たちが深く関わっていた。戦後、日本でもこのように検証し、今日の医倫教育や医の倫理に活かしていただくことを目的とした国際シンポジウムが、11月17日に京都大学「百周年記念ホール」で行われ、全国から300人以上が参加しました。

シンポジウムは大阪府保険医協会も参加する「戦争と医の倫理の検証会」の開催で実現されました。主催は「戦争と医の倫理の検証会」事務局、小島正明・東大医学部名誉教授と川島タケリ・日本看護大学名誉教授の座長で、パネリストとしてドイツからティル・バスターア、医師(戦争防止国際医師会)

氏は、2010年7月のドイツ医師会報が長年連邦医師会会長を務めた人物の死去を報じ、現職の連邦医師会長による讒言を添えたが、元会長はナチ軍医として被害者や病弱者の処死に關与してきたことを告発するなど、ドイツの医師・医学生、医療界に及ぼる過去の総括は未だ進捗不足と見られていた。

川田氏は、三三部隊で生体実験などが行われた医師・医学生たちは戦後フリーカとの取引ですべて免責され、中核部にいた多くの医師が戦後のわが国の医療界・道徳的地位について

「適切な医師たちナチ時代の医師の犯罪」などの書籍の出版がある。バスター氏は、2010年7月のドイツ医師会報が長年連邦医師会会長を務めた人物の死去を報じ、現職の連邦医師会長による讒言を添えたが、元会長はナチ軍医として被害者や病弱者の処死に關与してきたことを告発するなど、ドイツの医師・医学生、医療界に及ぼる過去の総括は未だ進捗不足と見られていた。

また、医師会を中心とした役割を担っている日本医学協会、また4年に一度開かれたこれまでの医学事実を指摘し、「タイプを

総括に取り組むドイツ 沈黙の日医・日本医学会

ドイツでは、2010年11月にドイツ精神医学神聖法神学協会が、ナチス時代に精神科医による処死に追いやられた25万人以上の精神障害者について謝罪を表明しました。さらに今年5月にはニュルンベルグで行われたドイツ医師会大会で「私たちは、ナチ時代の戦争の犯罪行為に対して、医師が重大な共同責任を負うべきである」との声明を発表していることなどを紹介し、日本医学会や医師会が、かつての戦争医学犯罪を反省し、謝罪を求めたい。

また知田氏は、医師会や医学協会が沈黙する中で、

抱えて医のモラルの低下をもちいた」と批判しました。

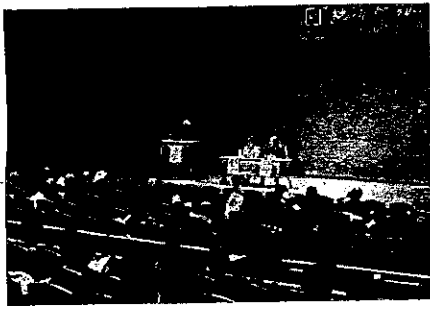
「には、の々教員人の米場がありました。

会場ではわが国の医師、医学生、医療界にも連年の戦争への加担、三三部隊などの医学犯罪の事実を提示する120枚余りのパネル展示が関連するDVD上映が行われました。来館者アンケートには「このような展示を京都大学で開催した意義は大きい」となどの感想が寄せられました。

「検証を進める会」の西山勝夫代表委員、住江眞尋務局長(保険連合会)などの関係者が、10月16日に京都府内で日本医学会の高久史慶会長と面談し、2015年に京都を中心に開催される第10回日本医学会総会で、過去の戦争と日本の医学・医療界の関わりを検証と教訓を明らかにする企画を加えることを要請しました。高久会長は、次期

総会の井村俊夫会長(元京大総長)に要請を行いました。これに対して井村氏は、総会のプログラム委員は、総会のプログラム委員も面談し、要請を行いました。これに対して井村氏は、

総会の井村俊夫会長(元京大総長)に要請を行いました。これに対して井村氏は、総会のプログラム委員は、総会のプログラム委員も面談し、要請を行いました。これに対して井村氏は、



京都大学「百周年記念ホール」で行われた国際シンポジウムの様子

国際シンポジウム 「戦争と医の倫理」

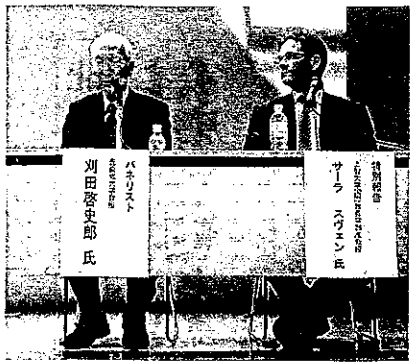
11月17日、京都大学百周年時計台記念館にて、「戦争と医の倫理」の検討を進める会主催で行われた。ドイツ側からは、医師のテールバステイアン先生(核戦争防止国際会議元ドイツ支部長、精神科医、インターネット電話での参加)と、上智大助教授のサーラ・スウェン先生、日本側からは、東北大学名誉教授劉田哲史郎先生、東大名譽教授小島莊明先生、赤十字看護大学名誉教授川島みどり先生等が参加された。全国からの参加者は261名でした。

■ 目的

かつての悲惨な戦争のか、その教訓と課題を明かす。ドイツの731部隊から、ドイツのアウシュビッツ強制収容所等において、人命を守るべき医師による戦争時の医学犯罪をどうの後に検証し、またその後の医学教育や医の倫理に活かしてきたか。

■ ドイツでは

1985年、ドイツの敗戦40周年のとき、当時ツ・ゼッカー氏は過去に敗戦40周年のとき、当時ツ・ゼッカー氏は過去に



パネリストの劉田氏とサーラ氏

に目を閉ざすものは、結局のところ、現在において、物が見えなくなり、非人間的な行為を心に刻もうとしないものは、又そうした危険に陥りやすいです」と述べています。

この言葉は、ホロコースト(ナチスドイツがユダヤ人を大量虐殺したこと)に対して言っているのですが、日本の医師が過去に行った非人道的行為を考えると、重要な意味を持つてくるのです。1988年、西ベルリン医師会

■ 日本では

1951年に、世界医師会加盟に際し「日本の医師を代表する日本医師会は、この機会に戦時中に敵国人に対して行った暴行を非難し、また行われたと主張され、そして、2・3の場合には実際に行われたという患者への虐待行為をめぐり」ときわめて控えめな声明

を出し、その前にも後に、反省と謝罪と検討はしておりません。日本政府としては、1995年当時の村山首相が述べた「周辺の国に多大な迷惑を掛けた15年戦争(1930年満州事変から1945年太平洋戦争終戦)は、侵略戦争であった」と謝罪し、これ

は、「国民に謝罪の言葉として、」ベルリン医師会はその過去の重荷を負う、我々は悲しみを恥を感じている」と言っています。さらに2010年、ドイツ精神医学精神療法神経学会は、70年間の沈黙を破り、3000名の精神科医が参加して追悼集会を行い、そこではナチス時代に精神科医が死に至らした25万人以上の精神障害者に対する謝罪がなされました。さらに、2012年5月、ドイツ医師会大会では、ナチス時代の医学犯罪には、医師が重大な共同責任を負うことを認め、さらに詳しい検証の必要性を確認しました。

ドイツでは、すでにアウシュビッツ強制収容所に進行されて殺害された人々(約300万人)とその遺族、精神科医が強制的に進行に加担し、殺害された、被害者(約25万人)とその遺族の方々には、賠償が支払われているとのことでした。

は、日本国政府の見解として認められているが、一部の政治家の中には、「南京大虐殺はなかった」「侵略戦争ではなかった」「賠償は行っていない」との発言も出ています。また、中国では731部隊等によって、いわゆるマルタとして殺害された生体実験をされた被害者の遺族、朝鮮半島では、従軍慰安婦の被害者とその遺族等には、賠償は行われておらず、今も中国国内と韓国内では裁判所への提訴等の形で怒りが噴出している。

■ 731部隊とは

中国ハルビン郊外にた日本軍の731部隊は細菌兵器開発のために、中国人、ロシア人、朝鮮人の捕虜を「マルタ」として収容、生体実験、生体解剖をおこない、3000人以上を殺害した。終戦後、アメリカがその

情報を提出することを条件に、戦犯としては国際裁判にはかけず、秘密裏に免責して無罪放免された。



■ 医学教育の現場では

ドイツでは医学教育のなかで、過去の戦争責任について教育しているケースが93%あり、中国では90%あるということですが、日本では、医学

■ なすべきことは

2007年に開催された「戦争と医学」シンポジウムで、米國ハーバード大学のウィクラ教授は「731部隊の問題について、最も重要なことは、検証を行うことにより過去の不正に対する責任を許し、医師による犠牲

言をしたドイツ医師会総会(2012年5月)などに学び、かつて戦争中の日本の医師の非人道的行為について、史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学医療のために不可欠であります。

その点、日本の医学界、医療界を代表する日本医学会、日本医師会の学会・大会等が、自らの問題として検証と反省を行い、謝罪するべきである。という趣旨の、日本医学会に検証を要請する宣言を掲げ、会は終りました。(小林 増蔵 記)

戦争と医の倫理 京大で国際シンポ

ドイツは70年の沈黙を経て謝罪

「戦争と医の倫理―ドイツと日本の検証史の比較」をテーマに「戦争と医の倫理」の検証を進める会が11月17日、京都大学百周年記念ホールで開催され、260人を超える参加者があった。ドイツの医師テイル・バスターン氏と医

学者の刈田啓史郎氏（元東北大教授）が報告。司会には検証を進める会代表世話人の西山勝夫氏（滋賀医科大学名誉教授）、座長は小島庄明氏（東京大学名誉教授）と川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学名誉教授）が務めた。バスターン氏は、ナチス



ドイツとインターネット電話をつないで議論

時代に医師によって行われた障害者施設での大量虐殺を生発表。そうした行為に加担していたとされる人物が、連邦医師会の会長を務めるなど、過去の清算についで議論が行われてこなかったと報告した。刈田氏は、731部隊による生体実験など戦時中の医学犯罪が免責され、戦後の医学界

において指導的地位に付いたことで、反省や検証をすすめることなく深刻なモラルの低下をきたしたと指摘。

しかし、ドイツでは精神医学精神療法学会が2010年11月26日に70年間の沈黙を破り3000人の医師が参加した追悼集会を開催。ナチス時代に精神科医によって死に追いやられた25万人以上の精神障害者に謝罪表明が行われた。ドイツ医師会も12年5月22日に過去の行為に対し謝罪し、行為の検証を進めていくことが決議。こうした取組み

が日本の医学界・医療界にも欠かせないと報告した。日本でも検証と反省を

最後に、医学者・医師の戦争加担についての公式の検証と反省を日本医学会に要請する2012年京都「戦争と医の倫理」の検証を進める宣言を確認、検証を進める会事務局長の住江憲勇氏（保団連会長）が読み上げた。なお、パネル展示も11月16日から21日まで京大構内で開催され、多数の見学者が訪れた。